

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
10	佐藤 菊乃（5）	<p>1. 今夏に生じた米不足における市内の状況と市の対応について</p> <p>平成の米騒動と言われた31年前の米不足で、外国産の米が緊急輸入された記憶のある方も多いかと思いますが、昨年度の猛暑による収穫高の減少と予想以上のインバウンド需要に加え、本年8月8日に南海トラフ地震臨時情報が初めて発令された途端に備蓄米としての需要が高まり、あっという間にスーパーの棚から米がなくなり、市民が米を買えない状況が継続した。</p> <p>この状況について、市内の状況と市の対応について伺う。</p> <p>(1) 市民が米を購入できない状況をどのように把握し、それを受け止め、何らかの対応をしたか。</p> <p>(2) 市内の保育園、幼稚園、小中学校の給食などへの影響はどうか。</p> <p>(3) 今回の件で、農政課に生産者から具体的な困り事などの相談はあったか。また、どのように対応したか。</p> <p>(4) 来年以降も同様に米不足が生じた場合を想定して準備できることは何か。</p> <p>2. コロナ禍収束後のこどもと高齢者の体力減退と課題について</p> <p>令和6年度富士市の教育行政によると、方針2の施策の柱3として、健やかな体づくりがある。12ページの解説の中で、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、こどもたちの体力の低下は依然として課題であり、体育の授業の指導方法の改善、外遊びの奨励などを通し、体力・運動機能の向上を図ると示している。</p> <p>一方、高齢者については、事業者が実施しているデータを、本市は積極的には取得していないように思われる。今春から開始された健康づくりデイトレーニングなどを通して、常に体力づくりやその他の課題について視野に入れた施策を取るべきだと考える。そこで、本市のこどもと高齢者の体力減退の現状及び回復への課題について伺う。</p> <p>(1) 日常生活におけるこどもたちの体の使い方、遊び方などについて、コロナ禍前後の違いはあるか。また、現場の教員や養護教諭から、体力や体の使い方などについて、具体的な困り事や対策を求める意見などはあるか。</p> <p>(2) 体育の授業の指導方法の改善とは、具体的にはどのような改善か。</p> <p>(3) 高齢者の体力の現状を知る目的で、例えば、各種高齢者サービスの利用開始直後の体力データの収集などを行っているか。また、その情報提供の仕組みについて、これからの展望を伺う。</p> <p>(4) いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らすため、市内各地で地域による取組があると思うが、特に力を入れたいことはあるか。</p>	市長 教育長 及び 担当部長